

## D 施設・拠点別情報提供の留意点

## D-8 まち歩き

ミニマム  
ポイント

- ①数字で歩く順番を示せば、文字が読めなくても歩ける
- ②距離や方向はできるだけ細やかに掲示。写真を用いて分かりやすく
- ③降雪、夜間でも目立つ場所に看板を設置

## 1 歓迎

- 「ようこそ〇〇へ」という歓迎の言葉が、観光客の目につきやすい場所に掲げられていると、おもてなし度が高まります。

× 多言語化する場合、「自分の国の言葉だけない」というイメージを持たれないよう、来訪する外国人の国籍に応じて多言語化します。(中文の場合、簡体字だけ、もしくは繁体字だけだと、併記がない方から“歓迎されていない”という印象を持たれますので、どちらも記載することとします。)

## 2 観光案内版 (マップ)

- マップには「現在地」「方位」「縮尺」を、また入り口がある場合は「入口」を必ず示します。
- 「現在地」という意味を示すピクトグラムはないので、「You are here」など言葉で示します。
- 土産物屋や飲食店など観光客がよく訪れるお店は、店名を見ても、どのような店なのか分からないので、お店の説明を多言語で表記します。

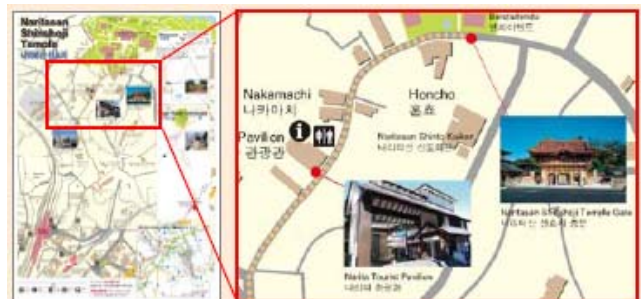
## &lt;番号の活用&gt;

- 観光案内板に番号を付け、番号入りのマップを見ながら歩けるようにすると、外国語版のマップがなくても、まち歩きが可能になります。
- お勧めのモデルコースなどには、歩く順番に番号をつけて、間違えずにまち歩きを楽しんでもらえるようにします。コースには距離や所要時間についても、できるだけ丁寧に示します。

## &lt;写真の活用&gt;

- 番号とともに効果的なのは写真の掲載です。歩いている途中に見える目印の写真、目的地の代表的な写真などを地図上に掲載し、(言葉の表記がなくても)一目見て分かるような工夫をします。

(千葉県・成田)



## &lt;色や方向の統一、ピクトグラムの活用&gt;

- 手持ちマップと掲示物やホームページにある地図が、同じ番号、色分け、ピクトグラムを用いていると、分かりやすくなります。
- 地図の方向が同じだと分かりやすいので、統一できるものについては、方向等を統一します。

### 3 誘導、禁止・注意事項など

- 「→」による誘導表示については、目的地までの距離も合わせて「→○○m」と表示します。「あと○分」は個人で差があるので「あと○m」にします。
- 誘導表示が途切れないようにします。(実際にチェックしてもらおうと効果的です。)
- 誘導表示は、「帰り道」のことも考えて設置します。
- 路上喫煙やポイ捨て禁止など、地域独自の禁止事項やルール等についても、多言語で案内表示します。
- 交通量が多い地点では、車に気をつけるなども多言語で注意喚起します。
- 設置場所は、雪が降っても夜間でも目にとまる位置に設置します。

× 注意事項を多言語化する場合、中国語だけ、韓国語だけ、など(英語以外の)限られた言語のみで示すと「自分の国だけ注意されている」と思われるので、複数の言語で注意書きを示すようにします。(または、英語併記のみにします。)